

平成27年度第2回「松阪市地域公共交通協議会」議事録

日時 平成27年 6月12日（金）14：00～

場所 松阪市役所 5F 正庁

【出席委員】 寺本博美、中村真弓、馬場栄一郎、内田茂雄、中村利明、尾張雅史、森本臣紀、鳥田茂、西出みはる、松本隆雄、田中和子、寺脇功、野田敏幸、川端賢一（代理）、堀上哲夫、尾上徹（代理）、廣田昇、田代剛士（代理）、杉山正樹

【関係者】 三重交通、三重名鉄タクシー、三交タクシー、嬉野地域振興局、三雲地域振興局、飯高地域振興局

【事務局】 交通政策室 室長：中田順也 主査：久保忠秀、三田歩

《協議事項》

1. 会長あいさつ

2. 議 題

- (1) 平成26年度松阪市地域公共交通協議会決算について
- (2) 平成27年度松阪市地域公共交通協議会予算について
- (3) 平成26年度松阪市運営公共交通実績について
- (4) 平成28年度補助分生活交通確保維持改善計画の策定について
- (5) 平成27年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業（計画推進事業））交付申請について

3. その他

《協議内容》

会長代理

会長がみえるまで、議事進行を進めさせていただきます。では、議題1について事務局から説明をお願いします。

事務局（「平成26年度松阪市地域公共交通協議会決算について」資料に基づき説明）

監査委員

さる6月2日、松阪商工会議所におきまして、事務局から提出のありました平成26年度収支決算書につきまして、松阪市地域公共交通協議会設置規則第14条第3項の規定により、関係帳簿並びに証拠書類を監査した結果、その執行は正確であることを認め報告申し上げます。また、もう一人の監査委員も監査いただいていることを申し上げます。

会長代理

何かご質問等ありますか。では、この内容について、承認をいただいたとさせていただきます。

会長

議題の2を進めていきます。協議事項になっています。事務局から説明をお願いします。

事務局（「平成27年度松阪市地域公共交通協議会収支予算（案）について」資料に基づき説明）

会長

27年度の予算案です。質問や確認はございますか。補助金をどのように使うか、補助金が入ってきて、その分支出をするということです。前年度より増額になっていますが、説明にもありましたが、補助対象が増えるということ。その分前年度と比較して増えています。何かございませんか。

委員

質問ではありませんが、追加資料の計画推進事業の中身について説明をお願いしたいと思います。

事務局

本日の追加資料ということで、平成27年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付申請書がございます。最後の議題にもございますが、少し説明させていただきますと、松阪市地域公共交通網形成計画の19～20ページに記載されています、鈴の音バス停留所の時刻表の整備、及び鈴の音バスラッピングの製作の部分でございます。そちらの内容に計画推進事業の補助を申請していくこととなっております。

会長

内容、追加資料についてで、事業の内容に対するものということです。よろしいですか。ご質問などございますか。

事務局

詳細な内容については、議題の5で説明させていただきます。

会長

承認いただいたということとさせていただきます。

続いて議題の3は、報告ですが、事務局からお願いします。

事務局（「平成26年度松阪市運営公共交通実績について」資料に基づき説明）

会長

続いて、三重交通の実績もお願いしたいと思います。

委員

松阪営業所管内について、24、25、26年度の乗車人員について、簡単に説明させていただきます。24年度は、120万人の利用、25年度130万人、26年度は約140万人ということで、毎年、微減で推移していましたが、25、26年度に関しては、若干増加しています。増加の内容として、精査したところ、定期券での利用が増えているようです。その中でも調べていくと、三重中、三重高、相可高校、飯南高校の学生の利用が増えており、定期券収入が増えています。推測ですが、自転車などで通学をしていた学生が、安全面からバスでの通学に切り替えていただいた傾向にあるのではないかと推測しています。以上簡単ですが、三重交通松阪営業所管内のご報告とさせていただきます。

会長

全体的な表、個別の路線の表を見ながら、何かご質問、ご感想などありますか。○×はそれぞれの路線についての指標がありますので、判定の基準が違う部分は理解していただきたいと思います。取組方の違いなどもあるかと思いますが、追加補足的な説明もあれば、厳しいところもあるかと思いますが、なかなか効率だけで評価できないところもあると思います。利用者が少ないから無くそうという単純な話では無いということも汲み取れると思いますが、そこも考えないと、こうした公共交通の役割や目的があるということも承知していかなければいけないと思います。何かございますか。それぞれの地区で利用される方の目的も同じではありませんので、そういった環境もあり、違うところも考慮しながら、次年度以降もこのバスが、我々の生活にとって欠かせないものになっていくためにはどうしたら良いかということを考えなければなりません。いかがですか。

委員

ほほえみバスですが、お医者さんの都合によって、随分、乗車される方が減っているようです。以前は毎日診察していただいていたのが、休みが増えてきて、全体的に他の病院に移られる方も増えて、患者が減ったと感じます。そういったところが、バスの数字にも表れているのではないかと思います。残念なことです、現実はそのようです。

会長

利用されようと思っても、診察時間、開業時間が影響しているとのこと。確かにそ

れに合わせて営業されますので、休みが多いと、利用が減ることもあると思います。目的がある程度ははっきりしていますので、直接バスの利用度に影響が出てきます。診療している人にも都合があるでしょうから、こうしてくれとはなかなか言えないでしょうが。こうした現状があるということを知っておく必要があると思います。他にありますか。バスというものも、三重交通の話でもありましたが、安全面を比べていくと、これからはメインになっていくのかなとも思います。高齢者が増えて、運転が危なくなっていくよりも、環境問題も考えると、マイカーが渋滞するなどあります。環境にもバスはやさしいということをもう少しアピールして利用していただくようにすると。何かございますか。

委員

我々は、嬉野宇気郷は、おおきんバスが運行していただいています。年々利用者も増えていきます。宇気郷というところは、三重交通さんをご存知のように、昭和21年から三重交通バスが運行され、ドル箱路線とされていたときもあると思います。その頃は、人口も1,000人以上もありましたが、今では135人となっています。65歳以上が100人。この2分の1くらいの方が、バスを利用されています。去年は免許返納者も増えて、このバスを頼りにしているという話も良く聞いております。バスに携わっておりますので、喜んで良いのか、悲しんでいいのか、複雑なところですよ。この表を見て、年間運行経費が25年度から26年度にかけて、140万円ほど上がっていますが、どういう理由というかを詳しく説明していただきたいと思います。地元としては、なぜそんなに上がるのかと思う人が多くいると思います。135人しかおりませんが、65歳以上でも77~8が平均年齢です。バスの利用も年々増えていくのではなく、減っていく方向なのではないかと思えます。どうしてこれだけの費用がかかるのか説明をお願いします。

事務局

ご質問があった嬉野おおきんバスの運行経費についてですが、25年度から26年度にかけて、1133万円から1275万円に上がっております。こちらの理由としては、3点ございます。まず、消費税が5%から8%に上がったこと、続いて、おおきんバスは利用が多く、追車が多く発生していることです。月に大体5万円程度の追車代金がかかっており、60万円ほど支払っております。それと、最後の一つが、26年度から豊地地区の島田という集落と、上野、神ノ木台という集落に入ることになりました。月水金、火木土で分けて運行しておりますが、運行の距離が増えております。1便当たり4km程度の距離が伸びていることがありまして、25年度から26年度にかけて経費が増えた理由です。ただ、おおきんバスにつきましては、運行経費は上がってはおりますが、細かく回ることによって運賃収入が増えておりますし、協賛金についてもルート上と運行しないところでの額を分けて考えていただくなどしており、ルートが増えたことにより協賛金も増えております。地域の負担率としては、20.7%ということで、松阪市の指標20.0%を上回って

るという状況でございます。

委員

追車での増額ということで、残念かと思えます。以前、車の件でも何度か申し出ていますが、小さい車でいつも7、8人乗れば満員ということで、車体も古くて乗車口も高いということがあり、乗りづらいということをおっしゃいます。できれば、大きいものに変えていただければ、追車にかかる費用も減るのではないかと思います。また、協賛金の方も地元宇気郷や中郷で集めていただき増えておりますので、そういう努力を見ていただいて、車のほうも考えていただきたいとも思います。

会長

乗車が増えたことに対して、費用がどれだけ増えたかの比率を見ることと、利用者が増えたことに対する収入の増という、増えたもの同士の比率を見る必要もありそうです。網一つは、1台当たりの乗車人数ですが、適正な乗車人数のバス、大きいと油代もかかるでしょうし、色々なことを考える必要があるということ。別途にお金がかかることですが、ステップが低く乗りやすい、バリアフリーな車体にするのが大事かと。利用者が増えて、費用が増えたということも割り切れない感じもします。そういったところをもう一度精査する必要もあると思います。それ以外に何かございますか。なければ報告について了解いただいとさせていただきます。4番目の平成28年度補助分生活交通確保維持改善計画の策定について事務局から説明をお願いします。

事務局（「平成28年度補助分生活交通確保維持改善計画の策定について」資料に基づき説明）

会長

この計画について、何かご質問などありますか。基本的には、嬉野おおきんバス、たけちゃんハートバス、鈴の音バスが27年10月から28年9月まで国の補助を受けるための計画であります。そういう意味合いで、見ていただいてご質問や不備な点ございましたら。何かございますか。概ねになると思いますが、お気づきになったことはございますか。専門の方もみえますが、ありますか。念押しで聞きたいことなどもあれば、ございますか。

委員

定量的な目標、効果の部分で、鈴の音バスのコスト指標が47%ですが、他と比べて高くなっていますが、人口比や商業施設があるからということですか。

事務局

鈴の音バスは、おっしゃるようにコスト指標が47%と、嬉野や三雲と比べると高いものになっています。この目標設定ですが、基本的には松阪市運営公共交通のプロセスでは、20%となっていますが、このバスについては、現在、26年度の結果が44.7%となっております。25年度が47.3%となっております。こういう実態を踏まえまして、今回は47%を目標とさせていただいております。

会長

24年度48.5%、25年度47.3%と下がってきておりますが、運賃収入、その他収入を47%としていることは、それだけ期待しているということだと思います。そう捉えればよいかと思います。せいぜい利用してください。その可能性はあるだろうと。利用者が増加傾向にあるという。その割には、なぜ収入が上がらないのだろうというのがありますが、他にございますか。日常生活の中で、鈴の音バスの利用が高まっていくと。確かに、よく見かけるようになりまして。私もこちらでは、鈴の音バスと三重交通バスで移動しています。何かございますか。議題4は、お認めいただいたとさせていただきます。続いて5番目の議題平成27年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付申請について事務局から説明をお願いします。

事務局（「平成27年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業（計画推進事業））交付申請について」資料に基づき説明）

会長

改めてご覧いただいて、申請の内容ですが。大きく分けてラッピング、停留所の整備。それぞれ50%の補助となっております。何かございますか。細かい事業内容も書かれています。バスを分かりやすく、利用しやすい環境にしていこうという整備です。バスが、今も特徴のある模様で走っていますが、いまやラッピングというのが、三重交通もそうですし、近鉄もそうですが、松阪を表現できるようなラッピングを専門家だけでなく、高校生も関わりやっけていくと。そういう形で補助金をいただくということですが、出す側も潤沢にお金があるわけではないので、申請が必要であると。何かございますか。ご承認いただければ、申請させていただきます。よろしいですか。

以上協議事項4件、報告事項1件終了しました。その他ございますか。

事務局

現在の任期が7月31日までとなっております。現在の任期までの協議会は今回が最後かと思っております。時期任期は8月1日から2年となります。今後、各団体様には推薦依頼など送付させていただきます。今後よろしくお願い申し上げます。

会長

次は、新たなメンバーでの開催になるかと思えます。今後もよろしくお願いいたします。